

創刊にあたって

公文書館の前に箕浦家の武家門があります。その建物をバックに写真を撮っている光景をよく目にします。武家門の持つ時代性が人を引きつけるのでしょう。歴史は今を生きる私たちの道標であり、時には新たな魅力となつて迫ってきます。わが家を見渡してみても、天保の字が読みとれる古い墓石があります。歴史の重みを感じるとともに、後代に伝えてゆく責務をあらためて感じます。さて、公文書館が扱っている古い資料は、武家門や墓石のように視覚に訴えかけてはくれませんが、歴史的に重要性があるとはいわれても、よほど歴史に造詣が深い人でないと、ただの古い文書があるだけで、開いて見たり写真に撮ったりするような魅力は感じないかもしれません。しかし、公文書館が所蔵する資料は、その時代／＼の政策が反映された鳥取県の歴史そのものなのです。その資料を調査研究することは、過去にどのような政策が行なわれたのか。今そこにあるものがいかなる理由で存在するのか等々、文字で証してくれるのです。これまで、『公文書館報』の中に「調査研究報告」として研究成果を公開してまいりましたが、今回『研究紀要』として創刊する運びとなりました。基礎資料にもとづく研究成果が、次の新しい研究へとつながり、また、より多くの人が地域を語る道標のひとつとして利用されることを願ってやみません。

平成一七年一月三十一日

鳥取県立公文書館長 谷口 康則